



手にしっかりとなじんでくるのは
本革ならではの感触。
仕事と生活のバランスをつかむための
ツールとして役立てることができるのは
手帳を使う自分自身。



手帳を振り返ると時代ごとに、
自分が仕事に対して向き合っていた
自信のありようが浮かび上がってくる。
野口氏の著書に「能率手帳の流儀」
一みずからの成長と人生の豊かさを求めて
(日本能率協会マネジメントセンター、2007年)がある。

野口晴巳(のぐち はるみ)
1938年山口県生まれ。日本能率協会マネジメントセンター代表取締役会
長。「手帳には生き方がつまっている」というほどに能率手帳の全機能を2
倍にも、3倍にも広げて使い切る。その実践された手帳の有様を見ると、引
き込まれて自分もやってみたい!と思わせる説得力に溢れる。



自分だけわかるマークを駆使したりマーカーで
色をつけたりと野口流の能率手帳使い術にはスキがない。

能率手帳の市販開始は
1959年版からだだが、
それ以前にはほぼ10年とい
う時間が存在していた。
日本能率協会の会員企業
向けに手帳を配布してい
た時代があるのだ。

1959年版から使用
した用紙は、能率手帳用
に特別に漉いたものであ
った。また戦後間もなく、物
資が潤沢にはない時代で
ある。クリーム色をした
目に優しくかつ丈夫な紙
は、製紙会社がこの手帳
のために特別に手当して
くれたものだといふ。

用紙の色、ケイ線のグ
リーンの色、オレンジ色
のレタリングなどデザイ
ンの多くは現在まで受け
継がれている。なかでも
この時、大野蔵という人
物がつくった手帳のフォ
ーマットが優れていた。
年間予定表は、自分と自
分が属すグループの動き
を全体として把握するの

に便利だった。3カ月ご
とに区切られている点も
いい。週間予定表の各日
に時間の目盛りを入れた
ことはすでに書いた。32
行のケイ線入りのページ
は、31日プラス合計欄用
の1行としてケイ線が引か
れている。集計用紙にな
っているというわけだ。

方眼用紙のページは、コ
ンサルタント用帳として
のルーツに直結してい
る。ここに工場のレイア
ウトや、製造工程の改善
案などを描くのだ。さま
ざまな工夫が手帳の細部
にまで、盛り込まれてい
る。たとえば月初めの欄
外には「初算、炎暑」な
どその月にふさわしい時
候のあいさつ例が載って
いる。手紙の書き出しは
あいさつさえ出してくれ
ば、用紙に移るのがぐっ
と楽になった経験からして
これは便利に使えよう
と。また「これは私に
とって大切なものです。
拾った人はお届けくださ
い」と手帳を紛失した時
のアナウンスまで入っ
ている。

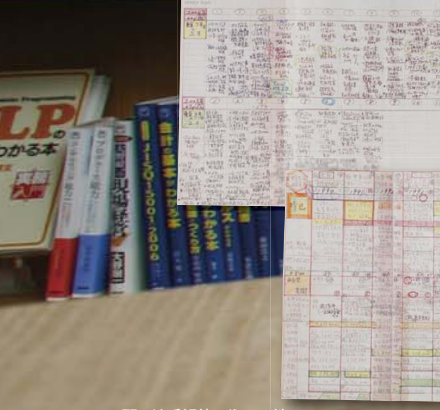
手帳本体のつくりも念
が入っている。手帳は日
に何回と取り出しては開
いて眺め、書き入れたり
する。だから構造、製本
とも丈夫にできていない
と困る。そこで能率手帳
の「綴じ」は糸でかがる



製本方式を選び丈夫につ
くってある。この背の部
分には、「寒冷沙(かんれ
いしゃ)」というガーゼの
ような薄い布を貼って補
強してある。また手帳の
断面の小口はメノウで磨
いて、汚れをつきに
してある。用紙の角を丸
くカットしてあるのは、
「天の耳」のように折れる
のを防ぐためである。こ
うした工夫やこだわりが
あったから、これらは手
帳のスタンダードとなり
、能率手帳という確固とし
たブランドを築いてきた。
そして野口晴巳氏の手
帳活用術には舌を巻く。
現在、能率手帳を発行す
る日本能率協会マネジメ
ントセンター代表取締役
会長であるという立場が
あるにしても、それをほ
るかに超えた情熱を手帳
に注いでいる。仕事人と
してだけでなく、手帳を
使いこなすことで人とし
てよりよく生きるための
ツールにもなることを実
践して見せてくれている。

**能率手帳は手帳としてのかたち、
スタンダードを定めたブランドだ。
その手帳を熱く語り最強のユーザーと
なった人物の手帳術がこれだ。**

- 使い終わった手帳を読み返すと
気づくことがあり、発見がある。
それが手帳にもうひとつの
仕事をさせることだ。そのために
30冊分の能率手帳を収納できる
桐製手帳保存箱が用意されている。
● 月産限定50個。価格1万8900円



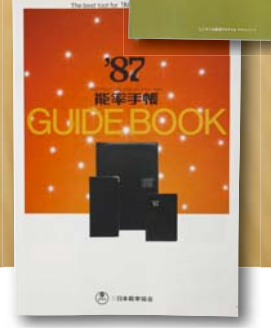
野口流手帳使い術の一端。
年ごとの記録を一覧表にする。
すると自分のやってきたこと
仕事の流れを俯瞰して
とらえることができる。



手帳はただの紙の集まりではない。
目に柔らかいクリーム色の紙に
向き合うと、単なるスケジュール帳を
超えた使い方が見えてくる。
だが「手帳は人に見せるために
書くのではないから自由に書いていい」
と野口氏は語る。



約束を忘れないためのメモ帳から
時間の配分を調整するツールへ。
さらには週間、月間、年間へと
タイムスパンを広げて自分の行動を
客観視するためのツールへ。
能率手帳のフォーマットは不変だが
変化を受け止めるツールになってきた。





能率手帳ネクサスパーチャル
月間予定表を別冊化。週間予定と並べて見られて便利だ。別冊には将来のビジョンを記入できる欄がある。価格1281円



能率手帳ウィック1
スーツの内ポケットに入る縦長のサイズ。朝昼晩の予定がひと目でわかるゾーンスケジュールタイプ。価格945円



能率ダイアリー-A5
能率手帳がそのまま大きくなった大型ダイアリー。メモも大学ノート約1冊分が入っており、デスクワーク時に重宝するツールだ。価格1638円



能率ダイアリーニューメモリー3年日誌
3年間のできごとを一覧できる。日記や業務の記録を経年で比較できる。価格1890円



能率手帳1普及版
基本的なデザインは不変で手帳の傑作品だ。日本初の時間目盛りを入れた。その後の手帳の土台をつくる。見開きは日記欄。価格966円



能率手帳エクセル8
縦長サイズ。右ページにメモに便利なケイ線入り。価格966円



**能率手帳ゴールド
能率手帳ゴールド小型**
ゴールドのサイズは伝統を継ぐはがき大。ゴールド小型はワイシャツのポケットに入るサイズ。能率手帳の最高級品。表紙に柔らかく手になじむインド産羊革を使用。手帳断面には24金を使用。価格各4200円



能率手帳チャレルA6パーチャル1
働く女性のために生まれた手帳。女性にとって便利な資料が入る。機能とデザインの両面を満足させる。価格1428円

終身雇用という形態にも変化の波は押し寄せている。スケジューリング管理はもとより、自己実現をするための生き方を選び取る時にも、手帳はこれからますます役に立ってくれる。重要性が高まる。いつでもどこでもパッと開いて、サッと見えて、スッと書き入れることができる手書きの手帳は、いつも身につけておける最高のツールである。

能率手帳ができてから60年が経ち、時代は大きく動いてきた。働き方も変わってきた。ひとつの会社で定年まで勤める

能率手帳という信頼のかたち。働くスタイルに応じてバリエーションが豊富にそろおう。

ページェム
能率手帳のノウハウから生まれたカジュアルな手帳。「毎日使うことが楽しくなる」をコンセプトに開発。ページにジェム、宝石のような毎日を書き入れてほしいという願いを込めて名付けられた。価格帯609～1365円



能率ダイアリーリフレ4
1日の記入スペースを広くとった日記・日誌タイプ。業務記録などワークスタイルに合わせた使い方ができる。価格1596円